

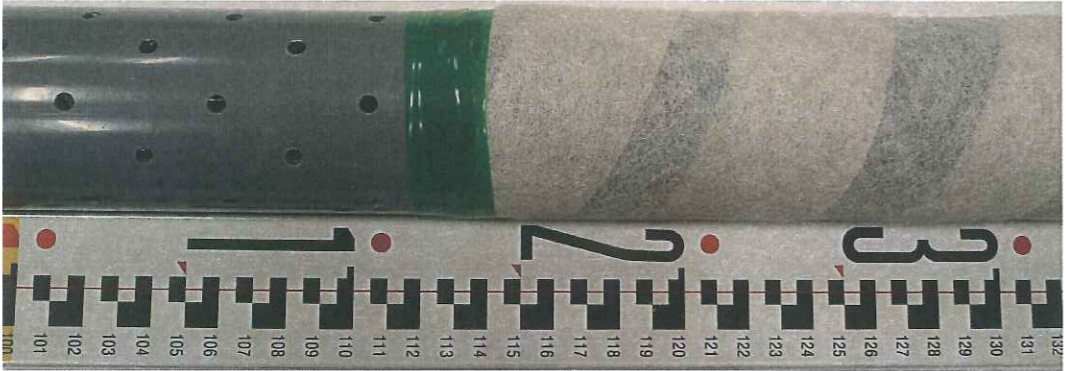

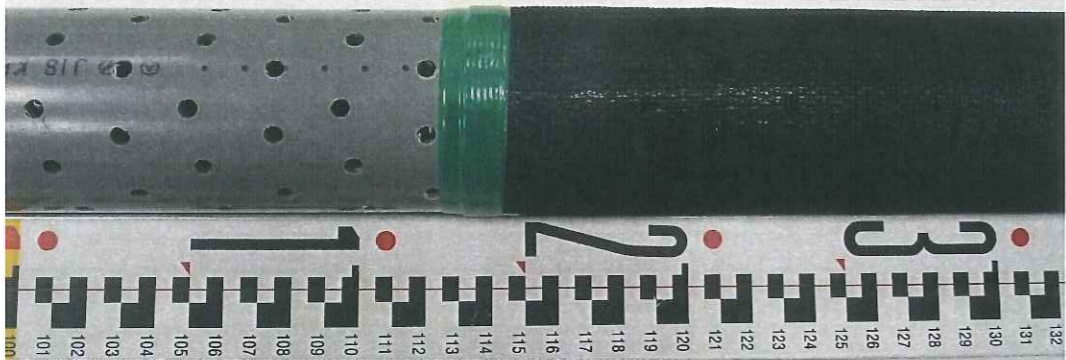
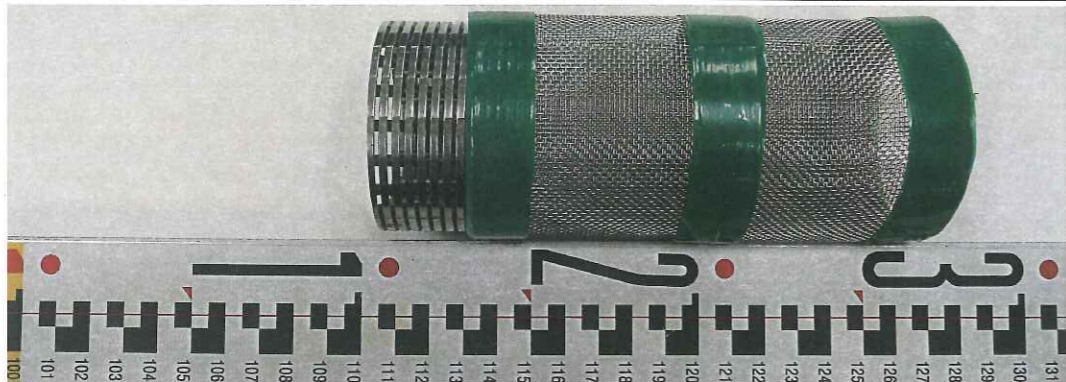

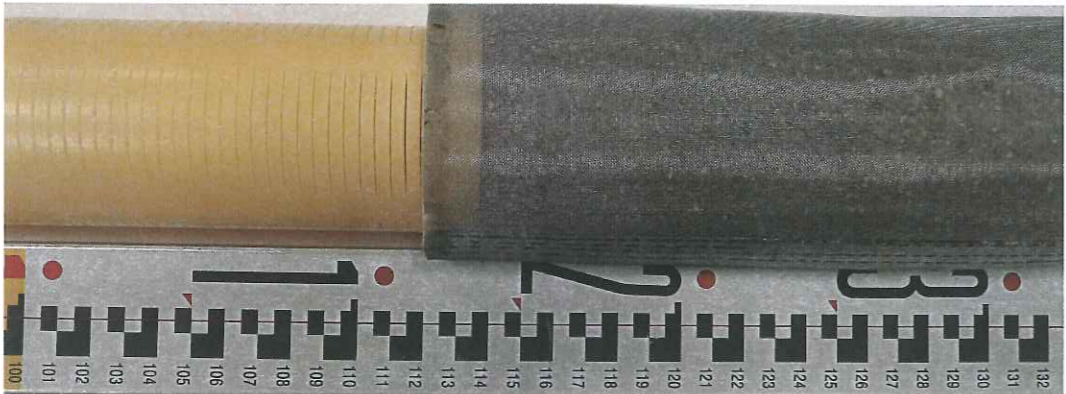
	<p>平成十八年度</p>  <p>有孔管：塩ビ管（VP50，開口率約3% 周囲には防砂シート（ジオテキスタイル））</p>	 <p>充填材：豆砂利（2号硅砂）</p>
<p>既存調査</p>	<p>平成十九年度</p>  <p>有孔管（廃棄物箇所）：塩ビ管（VP50，開口率約5% 周囲には防砂ネット）</p>  <p>有孔管（地山・砂層箇所）：巻線ステンレス管（開口率約10% 周囲にステンレス網）</p>	<p>【これまでの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充填材の大きさ（径約2~4mm程度）に比べ、開口部（φ5mm程度）が大きく、防砂シートや防砂ネットが破けた場合には、周囲の充填材が開口部から孔内に流入することが考えられる。 ・ 井戸設置において、パイプ挿入後、ケーシングを抜管する際、井戸材も同時に抜けてしまう等、周囲の硅砂や豆砂利など充填材が十分均等に投入しきれず、フィルターの役目を果たさなくなっている。  <p>充填材：ステンレス網の内側 豆砂利（3号硅砂） +ステンレス網の外側 豆砂利（2号硅砂）</p>
<p>新規調査</p>	<p>平成二十二年年度</p>  <p>有孔管：PVC管（開口率約10% 周囲に3号硅砂+ステンレス網）</p>	<p>【今回の対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スリット幅約0.5mmのPVC管を使用することで、周囲からの充填材の流入を防止する。 ・ ステンレス網内側で有孔管との間に事前に充填材（径約1~2mm 幅約1cm弱）を巻き付けた硅砂巻きパイプを使用し、ステンレス網外側には、既存調査と同様に充填材（径約2~4mm程度）を投入することで、井戸洗浄や採水等の際の地下水の汲み上げ等により充填材が移動することを防止する。 ・ 将来的なフィルター一部の目詰まりの影響が懸念されることから、開口率は既存調査の約3~5%から約10%へと高くしているが、今後のモニタリングの採水時等には、定期的に十分洗浄を行い、目詰まり防止に努める必要がある。

図-1 有孔管の加工図